

平成21年度 第4回宮城の将来ビジョン推進本部会議議事要旨

日 時 平成21年11月4日(水)13:20～14:55

場 所 行政庁舎4階「庁議室」

1 開 会

2 議 事

(1) 第2期行動計画策定の進捗状況について（11月現在）

〔企画部長より、資料1に基づき11月現在の第2期行動計画策定の進捗状況について説明〕

知事：厳しい財政状況ではあるが、将来ビジョンの目標達成に向けて、しっかりと取り組んでいきたい。行動計画の目標を示しているが、マニフェストと一部ずれがあるので、マニフェストに合わせてもらいたい。今後、企画部を通じて検討が必要な項目について具体的な指示を出す考えでいるので、協力いただきたい。

企画部長：国の動向が不透明であるが、行動計画については適宜修正を加え、来年2月の第5回将来ビジョン推進本部会議で最終的に決定していきたい。

企画部長：この件に関し、何か意見や質問はないか。

（質疑なし）

(2) 平成22年度重点事業（候補）選定案について

〔政策課長より、資料2に基づき平成22年度重点事業（候補）選定案について説明後、担当部長等より、資料3に基づき議論テーマ事業内容について説明〕

議論テーマ① 企業誘致，企業集積の加速化

経済商工観光部長：新たな目標指標として企業誘致等による雇用機会の創出（1万人）を設定したい。

病院事業管理者：地域イノベーション創出型研究開発支援事業で想定している医療機器関連の会社とはどこか。トヨタは豊田市に大病院を開業し、トヨタが医療機器を製造するようになったと聞くが。

経済商工観光部長：大手の医療機器会社を考慮しており、これらの会社の血圧計や体重計の部品製造のところで地元企業が参入できるよう、地元企業とマッチングを進めているところ。トヨタの件は貴重な御意見なので、トヨタと打ち合わせしてみたい。

議論テーマ② 観光による交流人口の拡大

経済商工観光部長：目標指標の宿泊観光客数を観光消費額に変更したい。

知事：観光消費額はどのように求めているのか。

経済商工観光部長：3年に一度の調査である観光動態調査の平成18年度の結果から、県外からの宿泊客単価、日帰り客単価、県内からの宿泊客単価、日帰り客単価を使用して、推計している。

議論テーマ③ 雇用対策

教育長：新規高卒者の就職支援については、経済商工観光部から話してもらったとおり、対応していかなければと思っている。教育委員会の立場からすれば、高校生の実力を如何に身につけさせていくか、長期的な視野のもと、キャリア教育がポイントだと考えている。

経済商工観光部長：基金事業の件で、10月23日に国の緊急雇用対策で要件が緩和され、無条件での1回更新業種が増えたり、事務補助員として高校生等を雇用できるようになるなど、柔軟性がでてきた。総額は増えないが、基金事業は計画に縛られずに、できるかぎり前倒しで実施するよう全庁あげて取り組みたいと考えているので、よろしく願いしたい。

議論テーマ④ 農林水産業の競争力強化

知事：食料自給率においては畜産とか水産は重要な品目にならないのか。

農林水産部次長：畜産や水産は数値をあまり上げられない。カロリーベースの考え方なので、重量当たりのカロリーが高い、米が一番効果大きい。また、食料自給率を上げるには、食物残さ等廃棄するものも分母に入っているの、これを減らす取組を行えば、自給率は上がるということになる。

企画部長：食料自給率県民運動とか、地産地消の運動とか、いろいろな県民運動が混在しているので、整理が必要ではないか。

農林水産部次長：県民運動の整理については、検討していきたい。

議論テーマ⑤ 子育て支援

知事：誘致企業の社員への対応はどうか。

保健福祉部長：社員は子育てや学校に関心があるようで、大和町、大衡村、大崎市はこのあたりをPRして居住してもらえよう頑張っていくようである。

知事：仙台市を除いてどのあたりで待機児童が多いのか。

保健福祉部長：最近では富谷町、将来的には大和町、多賀城市、利府町、名取市である。

議論テーマ⑥ 地域医療の充実

保健福祉部長：地域医療再生計画のところで、100億円の事業が無くなり、県当たり25億円で2カ所のスキームとなった。これまでは100億円と20億円の計画を議論していたが、地域でも大きな混乱はなく、現在は県南と県北でそれぞれ25億円の事業規模で取り組んでいく。

知事：30億円と20億円の組み合わせでもいいのか。

保健福祉部長：国からは1カ所あたり25億円という方針が示されている。地域医療再生計画では、最も重要なメインテーマが医師確保なので、東北大と医師会、地域医療機関と県とで構成する宮城県医師育成機構において、医師配置や研修プログラム、キャリア形成をどうす

るか議論しながら、医師の確保等を進めていきたい。

病院事業管理者：結核医療はこれまで日赤病院で診療してきたが、いまは瀬峰の循環器・呼吸器病センターで対応している。結核の医者自体が少ないこと、将来的に県立病院が独法化の方向であることからすると、医者の確保が困難となるのではないかと。

保健福祉部長：目標指標には、県立を除いた自治体病院等への医師の配置を23名から倍増することを目指しているが、県立病院まで含めるとなると難しい。結核医療については危機感をもっており、これまで東北大学と調整し11月から1名派遣できたが、医師確保についてはお互いに頑張りたい。

議論テーマ⑦ 介護サービスの充実

知事：24年度以降は基金事業による老人ホーム整備の進み具合を見て、考えるということか。

保健福祉部長：23年度は24年度分の一部を前倒して整備していこうと考えている。多床室については全体の3から5割くらいで進めていく予定である。

知事：需要と供給のバランスを取りながら、進めていくこと。

議論テーマ⑧ 学力向上と希望する進路の実現

知事：学ぶ土台づくりはどうか。

政策課長：学ぶ土台づくりについては、どこの部局で取り扱うのかもこれからなので、関係部局で調整していただいて、来年度の事業として入れられるものがあれば入れていく。

教育長：学ぶ土台づくりは就学前の子どもたちを対象とした幼児教育と捉えていて、非常に重要なことだと思っていた。教育委員会としては就学以前の子どもたちとの接触の手立てがなく、悩んでいたのだが、全庁的に横断的に検討いただくことで、取組が進むのかなと考えている。

企画部長：学ぶ土台づくりについては、横断的な取組となるので、これから調整させていただきたい。

知事：マニフェストの目標として入れたので、よろしく願います。

議論テーマ⑨ クリーンエネルギー先進県づくり

知事：経済商工観光部と情報共有して取組を進めるように。

経済商工観光部長：国がどこまで電気自動車（EV）にテコ入れするかによる。国が相当力を入れないと進んでいかないと思う。EVはフル充填しても電気代が20円ということなので、電気スタンドの経営が成り立たない。

環境生活部長：充電に対してメーカーやディーラー、コンビニ等がどのような役割を担うのか見極めをしないといけない。地元の電気事業者は仙台での普及をイメージしている。

議論テーマ⑩ 震災対策

（質疑なし）

企画部長：全体を通して、意見や質問があれば願います。

（質疑なし）

企画部長：今後は各事業について論点の整理や事業内容の詰めをお願いするとともに、議論テーマ以外の重点事業（候補）につきましても、課題ありとされているものを中心に、予算要求までに政策課・財政課が提示している課題について検討し、事業をブラッシュアップしていただきたい。

企画部長：それでは、平成22年度重点事業（候補）について、選定案のとおり決定してよろしいか。

（異議なし）

企画部長：冒頭説明したとおり、最終的な重点事業については本日の議論を踏まえ、来年2月の将来ビジョン推進本部会議において決定していきたい。

知事：政策財政運営の基本方針、本日議論いただいた内容とマニフェストを踏まえ、内容を整理していただきたい。また、部局が複数関係するものは十分調整していただきたい。企画部にはこのあたりの全体調整をお願いしたい。

3 閉 会